

『帝国主義』論に学ぶ

第9回

東京ブロック

第九章 帝国主義の批判

司会：今月号は第九章 帝国主義の批判です。レポートは、福田健二（東京西部県協会会長）です。この章は、先月号でもやりましたように、帝国主義にたいする批判の批判です。避けては通れない日和見主義とのたたかいです。

福田さんお願いします。

社会排外主義との理論闘争

福田：レーニンが『帝国主義』論を執筆した動機は、何よりも、社会排外主義との理論闘争にあったのです。「社会排外主義（ことばのうえでは社会主義行動の上では排外主義）が社会主義へ

の完全な裏切りであり、ブルジョアの一のがわへの完全な移行である」（序言）12頁。とくにこの第九章では、帝国主義にたいする批判の批判でもあり、ドイツ社会民主党中央派のカウツキーの「超帝国主義論」批判がその中心課題をなしています。

小ブルジョア的・民主主義的反対派は、帝国主義に自由競争と民主主義を対置し、この復活によって資本主義のもとでも平和が可能だと主張しました。レーニンが評価していたホブスンもその一人でしたが、『帝国主義の不可避性』に反対し、住民の「消費能力を高める」（資本主義のもとで！）必要を

うたっている。（180頁）

カウツキー「超帝国主義論」

カウツキーは、1880年ごろから社会主義の勉強をはじめ、マルクスにも会っていますし、エンゲルスとずっと接触していましたから、ドイツ社会民主党のなかでは左派で、レーニンと立場を同じくしていました。

だが、1910年をすぎ、第一次世界大戦になる過程で、ドイツが戦争の準備に入るための戦時予算の国会審議では、反対しなかつたのです。カウツキーは、第二インターナショナルの時

◆みんなの学習講座



代の社会主義運動の中心的な理論家でしたが、帝国主義にたいする理解が充分でなかったため、この国際的な協定——国際カルテルの発達をみて「これで、なかなか戦争が出来なくなる条件ができた」とみました。

カウツキーは、国際カルテルができるというのは、戦争によって解決をしなくてはならないような、資本の間の競争が、話し合いで解決が出来るようになったのだと考えたのです。

レーニンは、「帝国主義というのは、資本主義の発展した一つの必然的な段階である」と言っています。それにたいして、カウツキーは、「帝国主義は、産業資本の一つの政策であって、戦争政策にしても、植民地政策や、資本の投下にしても、必然的なものでなく、政策の一つにすぎない」というのです。帝国主義は資本主義の一定の段階であり、必然的な段階であるならば、今や資本主義は、帝国主義というかたちで

しか存在しないのだから、帝国主義の戦争政策をやめさせるには、資本主義自身を崩壊させ、排除しなければならぬとレーニンは考えたのです。けれども、カウツキーの考え方は、資本主義そのものを倒さなくとも、その帝国主義的政策をかえさせることができるというのです。

帝国主義各国が、市場の分割について、中国をどうする、インドはどこが占めるといった一種の協定を結び、お互いに、植民地と労働者階級を搾取する、その土台としての協定が結ばれる、戦争によってよりも、むしろ協定という平和的手段がとられる——これをカウツキーは超帝国主義といったのです。

帝国主義戦争を内乱に、

革命に転化すべきだ

レーニンは、帝国主義時代における戦争の必然性を実証し、その戦争を内

乱に、革命に転化すべきだと言っています。社会の根幹にメスを入れなければ、戦争は終わらない、帝国主義と戦争とは必然的に結びついていると考えました。

カウツキーは、帝国主義の経済的必然性をあいまいにしたので、結局、帝国主義戦争の必然性を明らかにすることができませんでした。資本相互の対立・矛盾、さらには帝国主義諸国間の対抗関係をまったく無視しているのです。

カウツキーをはじめとする第二インターナショナルの理論家は、この使命を果たさどころか、反対に帝国主義に対する小ブルジョア的・民主主義的反対派に引きずられ、小ブルジョア的立場に後退してしまいました。

そしてついには「平和については『すべてのもの』(帝国主義者、えせ社会主義者、社会平和主義者たち)

『が一致している』と主張」(181頁)するに至り、レーニンは「マルクス主義とは絶対に調和しえない精神」だと厳しく批判しました。

レーニンは、帝国主義列強による当時の中国の半植民地化を例に、超帝国主義論が空理空論にすぎないことを明らかにします。中国の半植民地化は、アヘン戦争の敗北でイギリスに香港を割譲(1842年)したことに始まります。その後、日清戦争後の1898年には、英仏露独日の帝国主義によって、租借地や鉄道敷設権、鉱山採掘権などが次々に奪われ、分割支配されます。

では、この分割は何によって行われるのか? レーニンは「分割に参加する国の力、すなわちその国の一般経済的、金融的、軍事的、その他の力以外のものは考えられない。」(193頁)と言います。この力関係は不変ではあ

りえません。「個々の企業、トラスト、産業部門、および国の均等な発展は、資本主義のもとではありえないから」(194頁)です。

したがって、『超帝国主義的』同盟は、資本主義的現実のなかでは、——これらの同盟がどのような形態で結ばれようと、すなわち一つの帝国主義的連合に対する他の帝国主義的連合という形態であろうと、あるいは、すべての帝国主義的強国の全般的同盟の形態であろうと、——不可避免的に戦争と戦争との間の『息抜き』(194頁)にすぎません。カウツキーが言うように、帝国主義同盟が成立し、一時の平和が成立し、一時の平和が訪れたとしても、それは新たな戦争を準備する期間であるほかないのです。これがカウツキーへのレーニンの回答であり、実際に、第二次大戦のわずか21年後には、次の世界戦争が引き起こされました。

◆みんなの学習講座



誌上学習会で
学び合う
東京の仲間たち



司会…ありがとうございます。論点を整理するために、質問を受けて討論で深めたいと思います。

島田…第二インターナショナル、と出てきます。率直にお聞きしますが、どういう組織ですか。

福田…1893年にパリで結成された社会主義実現を掲げる国際的な労働者組織です。主流はマルクス主義であったが、国民国家の時代を反映して、国ごとの加盟組織の連合体で、ドイツ社会民主党が主導的地位を占めていて、帝国主義が激化するなか反戦平和を掲げました。

しかし、第一次世界大戦が勃発すると、ヨーロッパ諸国の加盟政党のほとんどは、自国政府の戦争遂行政策を支持したため、大戦下に組織は崩壊しました。

島田…その第二インターナショナルの中心的な理論家であったカウツキーの人物像を詳しく知りたいです。

福田…カール・カウツキー（1854～1938）ウィーン大学で学び、1875年にオーストリア社会民主労働党入党。80年代初めにベルンシュタインと友人となり、ドイツ社会民主党の活動に参加します。81年にマル

クスやエンゲルスと知り合いとなり、理論誌『ノイエ・ツァイト』の編集者を務めます。エンゲルスの死後、第二インターナショナル最大の理論家として活躍したが、『超帝国主義論』、戦争中の中央派の立場、ロシア革命批判などを行ない、レーニンは「背教者」と呼び批判しました。

佐久間…当初、レーニンと立場を同じにしていたカウツキーが、なぜ、背教者になったのでしょうか

高井…一言でいうと、カウツキーの「帝国主義」に関する認識が間違っていたからです。

つまり、社会の根幹にメスを入れなければ戦争は終わらない、帝国主義と戦争は必然的に結びついているという考え方がないからです。

司会…東部県協以外からも、率直な疑問や質問を出してください。

小泉…社会排外主義と出てきます。これはどういうことですか

田口…レーニンは、「第二インターナショナルの崩壊」という論文で以下のように述べています。

帝国主義戦争において祖国擁護の思想を認め、この戦争で社会主義者が「自国」のブルジョアジーおよび政府と同盟化することを正当化し、「自国」のブルジョアジーに対するプロレタリア的革命的行動を宣伝し支持するのを拒絶することです。

社会排外主義の基本的な思想的政治的内容が日和見主義の基礎と完全に一致することは、まったくあきらかです。

齋藤…レーニンはホブズンを評価していたとあるが、それは何故ですか

高井…1902年刊行された、イギリスの経済学者J・A・ホブズンの著書『帝国主義論』では、「ブルジョア的な改良主義と平和主義との見地に立っているが、帝国主義の基本的な経済的および政治的諸特質のきわめてりっぱ

な詳細な叙述をあたえている。」(26頁〔序章〕)と評価しています。

資本主義を打倒し、

社会主義社会を創ろう

槍崎…「帝国主義は最高度に発達した資本主義である」と、レーニンは主張していますが、一定の段階とは次の段階があるということでしょうか。

福田…帝国主義の後に、資本主義の新たな段階があるわけではありません。

帝国主義は、資本主義の発展の最高にして最後の段階です。レーニンが「段階」という表現にしたのは、それまでの自由主義的資本主義とは、その基本的属性においてすっかり変わってしまったということですよ。

千葉…「資本主義自身を崩壊させ、排除しなければならぬ」とありますが、どうことですか。

高井…「独占は、自由競争から発生し

ながらも、自由競争を排除せず、自由競争のうえに、またこれとやらんで存在し、このことよって、一連の特に鋭く激しい矛盾、軋轢、紛争を生み出す」ことの帰結が帝国主義戦争です。

つまり、資本主義を打倒し、これに代わる新しい社会＝社会主義社会を創ろうということですよ。

千葉…繰り返しとなりますが、第八章でレーニンは、「帝国主義は最高の段階、つまり最後の段階」と規定し、「死滅しつつある資本主義」と特徴づけなければならぬ、と述べています。しかし、自動的に崩壊するといっているわけではありません、とことわりも入れています。この意味合いは深いと思います。

司会…千葉さんの指摘どおりです。レーニンが「帝国主義」を経済的見地から分析しただけでなく、唯物弁証法で社会の発展史を見た時に、私たち労働者階級の任務は何か、明確に言い表し

◆みんなの学習講座



誌上学習会で学び合う東京の仲間たち



た内容と考えます。

次の第十章で、その点はもう少し深めたいと思います。

その前に、「日和見主義とのたたかい」は徹底的しなければならぬ、という提起です。皆さんはどう考えますか。

か。

齋藤…カウツキーは、当初、ベルンシュタインの修正主義を批判するが、1905年の第一次ロシア革命を「農民が中心で、労働者階級が発達してないから力にならない」と批判します。

レーニンは、「レーニングラードの大工場に労働者が結集し、成長してきている」と反論します。帝国主義戦争は話し合いだけでは解決できない。また、戦争で労働者は疲弊し、貧困にありでいる、と訴えました。

芳賀…では、何故、カウツキーは労働者階級を裏切る立場になったの。

高井…ドイツ社会民主党は躍進し、第一次大戦前夜の1912年の総選挙で第一党になりました。マルクス主義もいたが、改良主義や修正主義がしだいに多くなり、「戦時予算」に賛成しでゆきます。

千葉…いつも、資本側はこの資本主義を延命させようと色々な画策をするん

ですね。

芳賀…総評を解体し、連合を成立させるために、国労を中心とした「官公労」と「民間」を分断し、その時に「民間大労組幹部も協力した」と聞きます。

佐久間…初代連合会長に就任した山岸章は、旧電電公社の労働組合「全電通委員長でした。電電公社の民営化（N T T）や労働組合を通じて日本社会党を解党した人です。

だから、勲一等瑞宝章受章です。特別扱いです。労働者のためではなく、自分のためとはつきりしています。

司会…ありがとうございました。次回は最終章の第十章です。

「帝国主義の歴史的地位」を東京南部県協千葉会長がレポートします。乞うご期待ください。